

## CoSTEP が討論劇と評決ワークショップを開催

”わたし”は機械で取り戻せるのか?～討論劇で問うブレイン・マシン・インターフェース開発の是非～

### 【概要】

北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) では、認知症の治療のためにブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発を認めるか否かを問う討論劇ワークショップを開催します。BMI とは、脳と機械をつなぎ、脳の機能を強化したり、疾患を治療したりする科学技術のことです。

日本では高齢社会が問題となって久しく、私たちの生活のいたるところでその影響は顕在化し始めています。中でも認知症は非常に身近でかつ深刻な社会問題の代表と言えるでしょう。今回は、2030年の市民法廷を舞台として、認知症の治療・予防を目的とした BMI 開発を認めるか否かをそれぞれの証人が主張します。来場者は討論劇の鑑賞後、陪審員として BMI 開発の是非について評決を行っていただき、最後に評決の発表と討論劇エンディングを上演します。市民法廷は、一体どのような評決を下すことになるのでしょうか。

### 【趣旨】

BMI を含む先端科学技術は、普段の生活のなかで耳にする機会は少なく、身近なものとして認識することが難しいかもしれません。そこで、認知症という誰にとっても身近な社会問題にかかわる科学技術を取り上げ、「自分ごと」として落とし込み、先端科学技術との付き合い方を真剣に考える場を提供したいと思います。討論劇を通して、科学技術には正負の側面があることへの理解を深め、来場者同士が意見を共有することを通して、認知症への理解を深め、健康やアイデンティティといった「哲学的」な問題にまで考えを巡らせていただけたらと思います。

機械によって”わたし”は取り戻すことができるのでしょうか?そのときの”わたし”とはなんなのでしょうか。参加者とともに考えていきます。

**【日 程】** 2020年1月26日(日) 14:00～16:00 (開場 13:30)

**【場 所】** 札幌市資料館刑事法廷展示室 (札幌市中央区大通西 13 丁目)  
<http://www.s-shiryokan.jp/floor/01-3sapporo.htm>

**【主 催】** 北海道大学 CoSTEP 対話の場創造実習 劇団 DoSTEP 2019

**【共 催】** 札幌市資料館

**【参加費】** 無料

**【言語】** 日本語 (同時通訳無し)

**【プログラム】** 40分ほどの討論劇を鑑賞後、ワークショップ参加者は、陪審員として議論の対象となった「ブレイン・マシン・インターフェースの開発」の是非について評決を行います (50分)。その後、評決の発表と討論劇のエンディングが上演されます。ワークショップに参加せずに討論劇のエンディングを見たい方は、その間お待ちいただくことになります。

**【申込方法】** 評決ワークショップに参加を希望する場合はフォームでの事前申込が必要です。  
申込フォーム：<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/formmail/160/>  
(討論劇の鑑賞のみ希望される場合は申込不要)

\* このイベントは科学研究費助成事業「演劇を用いた科学技術コミュニケーション手法の開発と教育効果の評価に関する研究(基盤研究C19K03105)」(研究代表:種村 剛)の助成によって実施されています。研究報告のため、ワークショップの内容は録音・録画を行います。

#### **お問い合わせ先**

北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション  
教育研究部門 (CoSTEP) 担当 種村 剛 (たねむらたけし)

T E L 011-706-5320 F A X 011-706-5320 メール [tanemura@costep.hucc.hokudai.ac.jp](mailto:tanemura@costep.hucc.hokudai.ac.jp)

U R L <https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/contents/article/2073/>

#### **配信元**

北海道大学総務企画部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール [kouhou@jimu.hokudai.ac.jp](mailto:kouhou@jimu.hokudai.ac.jp)